

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071001194
法人名	有限会社 正和
事業所名	グループホーム 平尾宅老所
所在地	福岡県福岡市中央区平尾1-10-6
自己評価作成日	平成24年1月31日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	財団法人 福岡県メディカルセンター		
所在地	福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号		
訪問調査日	平成24年2月28日	評価結果確定日	平成24年3月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「共に生活し支え合い、喜びを分かち合う 家族のように」という理念をいつも考え、利用者に寄り添い支援していく。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

都心の高層ビルの1~3階に事業所があり、西鉄電車沿線で交通の便もよい。3ユニットの管理者がそれぞれのカラーを出しながら職員と共に、一つひとつがより良くなるようサービスの向上に取り組んでいる。管理者と職員が基本理念にそって、利用者に寄り添う支援や、地域とのつきあい、災害対策などへ取り組んでいる。外部研修に参加し、職員への伝達講習も行っている。協力医療機関のAED講習に参加したり、歯科医・歯科衛生士の講習会にも参加している。事業所行事の七夕やもちつき大会を玄関前で行うことで、地域との交流に努めている。今後も大いに期待できる事業所である。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+) + (Enter+)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「家庭的な環境の中で、自分らしく生活する事を支援いたします」という基本理念のもとに、利用者様と一緒に掃除や家事をしたり、地域の運動会や清掃に参加し、地域に関わる機会をつくった。	基本理念にそって、入居前の生活に近い形で過せるように、各ユニットの管理者と職員は利用者を尊重し、小さなサインにも気付き支援するケアを実践している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の夏祭り、運動会、清掃、その他様々な行事に参加し、地域住民と交流できた。	毎月、地域の広報誌を見て参加できる行事には積極的に参加している。運動会では競技にも参加している。また、事業所行事を玄関前で行う事で地域の方との交流に努めている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症について、毎月勉強会をひらき、研修につとめている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回、運営推進会議を開催し、そこで出た意見をもとに、サービスの共有、向上につとめている。	運営推進会議は家族、町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員、福岡市保健福祉局職員、事業所職員のメンバーで開催している。報告や意見、アドバイスをいただき、事業所のサービスの向上に努めている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月に一度は中央区役所へ訪問している。また、中央区の保護課や包括支援センターの担当の方と連絡をとり、連携を図っている。	介護保険の申請や利用者の状況報告で区役所を訪問している。運営推進会議に地域包括支援センター職員、福岡市保健福祉局職員の参加があり、相談や連携ができています。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	建物の構造上、玄関の施錠はしているが、禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに日頃から取り組んでいる。	福岡市介護保険事業者研修「ふくおか身体拘束ゼロ作戦」の研修を受講し、職員に伝達講習を行っている。身体拘束廃止委員会が3カ月に1回開かれ、現状の反省をし、目標を決めている。職員は身体拘束をしないケアを正しく理解し、ケアに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に研修会に参加し、研修で学んだことをスタッフ全員に伝達している。		
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年、講習会へ参加し、講習会で学んだことは、スタッフ間で共有している。	現在、成年後見制度を利用している方はいない。年1回外部研修を受講し、職員への伝達講習を行っている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入・退所前に、ご本人、ご家族様と話し合う機会をつくり、不安や疑問点について説明を行い、理解・納得を得ている。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談窓口を設け、いつでも対応できるようにしている。面会に来られた際に、日頃の様子を説明している。家族会や運営推進会議でも、意見を頂くようにしている。	年1回の家族会や運営推進会議の参加時、また、日頃の面会の際に意見や要望を聞いている。家族からの要望で食事のカロリー計算の実施に至るなど、意見を反映させている。	
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回、ユニット会議を、また、定期的に業務改善委員会を開き、職員の意見を聞き、反映させている。	業務改善委員会やユニット会議で職員の意見や提案を聞いている。職員の意見により、見直しをして記録業務を合理化させたこともある。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各管理者により個別面談を行ったり、勤務状態の把握、確認を行い、各自が向上心を失わないように努めている。		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	スタッフ一人ひとりの能力、個性が發揮できるよう配慮し、やりがいをもって働けるような職場づくりをしている。朝礼や全体会議時に、意識付けている。	20～60代の職員が配置されており、勤務表作成の際に希望を出す事ができ、各ユニットで生き生きと勤務している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	一年に一回、人権研修に参加している。日々の業務の中でも、利用者様の立場に立って考えるように取り組んでいる。	グループ老健の「人権・マナー向上委員会」に参加している。年1回の外部研修受講後に伝達講習を行っている。伝達講習は多くの職員が出席できる時間帯を設定している。	
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的実施されている外部研修に参加している。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月に一回行われている、区のケアマネ会議等に参加している。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っている事、不安な事を、その都度聞き取り、看護師、ケアマネを含め、ユニット内で話し合いの場を設け、安心の確保の努めている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアプラン作成前の情報収集として、本人、家族の困りごと、不安な事、要望を聞き取り、支援している。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が、まず必要とする事は何かを見極め、何を優先にしたらよいかを話し合い、それに関するサービスの導入を実施している。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来ることをしていただき、できない事のフォローを職員が、本人と一緒に行うようにしている。職員と共に生活の場をつくり、お互いの信頼関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生会やもちつき会等への行事、レクリエーション時には家族に声かけ、参加していただき、また、連絡を密にとりながら、共に本人を支援していく関係づくりをしている。		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅中に馴染みのあった交友関係が途切れないように、定期的に電話連絡したり、面会に来ていただいている。	利用者の行きつけの店の店員さんに会いに行くなど、個々の馴染みについての支援を積極的に行っている。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が一緒にできるゲームや、歌、共に楽しめるレクリエーションをしたり、家事をしたり、共同で行うことにより、お互い支え合える関係に努めている。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了後も、電話があった際は、話を聞いたり、相談に応じたり、必要に応じ支援している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや希望を聞き取り、本人を含めて話し合いの場を設けている。できる限り、意向に沿ったケアができるよう努めている。	直接本人から思いや希望を聞き取り、また普段の生活の中からもくみ取っている。家族は意見を遠慮している所もあるが、面会時に希望を聞き、個々の思いや意向の把握に努めている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その人らしい生活をしてもらうために、在宅での生活歴、生活習慣、馴染みの暮らし方を継続できるように努めている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今までの生活習慣をもとに、その人らしい一日の過ごし方や、その方の心身の状態の確認、把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	お電話や面会時の家族とお話の中で、意見や気持ちを聞き、介護計画に反映させ作成している。	3か月に1回のサービス担当者会議に可能な限り本人、家族の参加をお願いしている。事業所内でも多職種で話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	現在、会議への家族の参加は数名である。より多くの家族と話し合いの機会をもつための工夫に期待する。
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別介護記録に気づきを記入し、毎日の申し送り時に、職員間で情報を共有しながら、介護計画の見直しに努めている。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人の日々の心身状態を把握し、その都度、介護方法を変えたりしながら、臨機応変に対応している。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	その方の生活状況を把握し、本人が持っている心身の能力を發揮できるように努めている。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族、本人からの希望を重視し、説明、納得していただくなどして、できるだけ希望に沿えるように支援している。	月4回の訪問診療と月2回の訪問歯科を行っている。受診の際は職員の看護師が必ず入り、状態の把握に努めている。個々に応じた医療機関受診では施設車を使用した支援も行っている。	
33		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝の申し送り時に報告及び状態の変化に伴う看護師への連絡は、適宜行っている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ご家族様に、利用者様の心身の状態確認をお電話で行っている。また、病院にも情報交換や入退院の相談等に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族、主治医と職員で相談しながら、支援できるように取り組んでいる。	利用者の状態が重度化した際は、可能な限りホームで過ごしていただき、入院となるケースが多い。これまでに看取り経験はないが、今後の課題として取り組みを検討している。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に一回、AED講習会など定期的に研修へ参加したり実施訓練している。		
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難・消防訓練は、昼夜設定で年に2回実施している。運営推進会議で町内会長様、民生委員様等地域の方に随時報告している。	避難・消防訓練で消防署の指導を受けたり、近隣のビル管理者へ案内をしたりしている。都心の高層ビル内という事業所の状況を管理者・職員はしっかり認識している。また、協力医療機関でのAED講習に参加している。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	分かりやすい丁寧な声掛けに努め、利用者様の気持ちを考えた対応をしている。一人一人に合った声掛け、対応の仕方を工夫している。	職員は穏やかに一人ひとりに丁寧に声掛けをしている。利用者の家族より呼び名の希望があるなど、親しみを持って対応している。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションの中で、利用者様の好きな物ややりたいことを聞き取り、希望に沿った生活ができるように努めている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の「声」を最優先し、今したいことをできるだけしていただけるよう、お一人お一人との関わりを密なものにしていくよう努めている。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様と一緒に洋服を選んだり、好みに合うよう、整髪したり、おしゃれを楽しんでいただけるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の力量や能力に応じ、食事の準備、皮むき、きざみ、盛り付け、配膳、下膳、台拭き、食器拭き、など係を決め、興味、楽しみが持てるよう努めている。	毎食、各ユニット毎に利用者と共にメニューを決めて準備をし、食事をしている。水分補給にお茶以外の好みの飲み物を飲まれる方もいる。また、少人数で馴染みの店を訪ねて外食する事もある。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士によりカロリー計算された献立を作成し、食材をお粥、きざみ食等摂取しやすい状態で提供している。水分量は食事時のほかに、10時、13時、15時に好みの飲料水を飲んでいただき、水分量を確保している。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛け、歯みがき、うがい、義歯洗浄を介助等、個人の能力に合わせてケアを行っている。		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間誘導、尿の間隔、声掛け、排泄表を確認し、個人の排泄パターンに応じて行っている。	入居後個々の排泄パターンを把握して自立支援に取り組んでいる。トイレのドア前に長い暖簾を設置してプライバシーと転倒防止に努めている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎食時、おやつ時の水分補給に加え、一日2回の水分補給や体操、散歩等に努めている。		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	週2日入浴できるように努めており、一人一人の希望に合わせて入浴をしている。入浴拒否がある場合は、介護士・曜日・声掛けの仕方を変えて対応している。	入浴拒否がある方でも週2日入浴していただくように、入浴時間や個人に合った声掛けをし、入浴の支援に努めている	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時の状況や利用者様に合わせて休息をしていただいたり、居室でテレビを観たりと、一人一人の気持ちを優先させています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の服薬内容を確認し、職員同士で名前確認を声を出して行い、確認に努めています。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事づくりや洗濯物のお手伝いをしていただいたり、季節事の行事に楽しく参加していただけるよう努めています。		
51	(21)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の希望に沿って、散歩や買物をしていただけるようにし、気分転換を兼ねた外出の支援を行っています。	初詣や地域行事への参加など、積極的に外出支援を行っている。また、プロ野球観戦招待事業を活用して、利用者や職員で野球観戦にも出かけている。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の希望をお聞きし、必要に応じて買物や外食をしていただき、お金を使えるよう支援しています。また、本人の財布を用意し、お小遣いから必要なものを買うようにしています。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を出したり、利用者様からご要望があれば電話をかけていただき、ご家族様とのやり取りを支援しています。		
54	(22)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が好きな音楽を流したり、エアコン、加湿器を用いて快適な空間づくりを行い、不快感の除去に努めています。共用スペースでは季節に合った飾りつけを行い、雰囲気作りに工夫をしています。	昔の曲を流したり、季節ごとの飾りつけをしたり、利用者希望のチャンネルでテレビをつけたりして、居心地のよい共用空間になっている。利用者が音頭をとって皆の手拍子が始まる楽しい歌の時間もある。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様同士が楽しくお話をされたり、一人ひとりの時間が過ごせるように、食卓では臨機応変に座っていただけるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56	(23)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔から使用されていた家具やぬいぐるみなどを持ち込んでいただいたり、利用者様のニーズを考え、安全で居心地の良い空間づくりに努めています。	人形、ぬいぐるみを好んで置かれる方、ベットでなく布団にされる方など、個々の希望にそった居室になるように支援している。	高層ビル内ということもあり、ベランダで洗濯物を干すことが難しいため、各居室内で干している状況である。利用者がより居心地よく過ごせるための居室の工夫に期待する。
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用スペースには手すりがついており、安全に歩行していただけるようにし、玄関先・エレベーター前にはイスを置き、靴をご自分で履いて頂けるよう環境づくりに努めています。		